

令和5年4月

市川三郷町長 遠藤 浩



市川三郷町の向かうべき姿を「令和五年度、新しい地域経営」としてお示しいたしました。GDW向上（町内総充実）を目指し行政推進していきたいと考えております。「GDW（Gross Domestic Well-being）」の Well-being は、「幸福度」とか「幸せ」という意味です。地域への誇りや愛着を持ち、住んでいる意義を実感するということがありますが、幸福度につながる一歩だと思っております。それに向けての方向性であります。

重点事業として6項目掲げております。

六郷 IC 周辺整備につきましては、昨年度末、官民連携の「六郷インターチェンジ開発推進協議会」を私が会長となり設立することができました。町といたしましてもその推進に全庁横断的に参画しスピード感を以て取り組んでまいります。

神明の花火大会につきましては、今回 35 回となります。前回から信玄公祭りとコラボレーションしており、信玄公祭りは 50 回を迎えるということでどちらも節目の年です。さらにオマーン大使館との交流からオマーン大使もおいでになる予定で、全庁横断的な取り組みとして国際発信する機会になると考えております。

峡南地域観光振興による活性化につきましては、3/22（水）から本町では市川大門駅と甲斐岩間駅の2カ所にシェアサイクルを配置して供用開始となりました。こうしたことを皮切りに、昨年8月に始まった山梨県と峡南5町の地域活性化の推進体制である「峡南ネクスト共創会議」を積極的に活用していきたいと考えています。

農業の高収益化と面展開につきましては、新品種開発、機器やデータの活用により高効率化、高収益化について研究し、県農政部、JA山梨みらい、農業委員会など関係者と連携を密にして町内全域に面展開ができるよう研究してまいります。

これらは事務分掌をもつ担当課だけでなく、縦割りではない横ぐしを刺した形で体制を作りながら推進していき、役場全体で取り組む体制を構築してまいります。

「介護、福祉、健康増進」、「子育て保育環境」につきましては、今回の機構改革での再編によるもので、町民福祉向上のため、重点的に全庁横断的に行政推進していかなくてはならないと思っております。

平成17年10月、市川三郷町誕生以来、社会環境や福祉行政は大きく進展しております。これにより多様な支援と高い効率を求められる現代においてその要請に応えることができる機能的な行政組織に変革するべきと認識しております。

介護課、福祉課、いきいき健康課につきましてはそれぞれの役割分担を明確にして強化するとともに

に横の連携を強化する中で町民福祉の向上に取り組んでまいります。

また、「子ども家庭庁」の誕生に伴い、公立保育所4園、私立保育園3園、認定こども園2園を有する本町としては子育て環境を一元的にお支えしていくことが合理的であることから、新たに「子育て支援課」としてスタートいたしました。それぞれ、町民と直接関わる機会の多い重要な所管でもあり、町民福祉向上のため事業の目的を常に意識し効率的な業務が推進できるよう執行体制を構築いたしました。今までの知識や経験を新体制の中で発揮できるよう職員一丸となって町政を推進してまいります。

これらを推進していくために、町内経済の立て直しをしていかなければなりません。企業誘致という手段もありますが、企業側が求めるインフラ整備がなされた広大な用地は少ないことから、いわゆるスモールビジネスの誘致にも県などの事業と連携して取り組みたいと考えております。また、昨年度立ち上げた「ラウンドテーブル市川三郷」では、町内企業に意識改革や行動変容によって業績を上げていていただきたいと思っています。行政としてその応援をしております。

経済の語源であります「經世濟民（けいせいさいみん）」、これは世を経（おさ）め、民を濟（すく）うという意味で、つまり政策によって人々が幸せになるということです。現在の少子高齢化、人口減少社会において生産年齢人口が減ってくるという状況であります。この事態にどう対応していくかについては、一つは人の数が減れば単価を上げていく必要があるということで一人ひとりの町民所得を上げることができないか、ということです。もう一つはリンケージ人口、関係者を増やしていくということでもあります。町外で労働を含めた経済活動を行い観光などの手段により来訪者を増やし、町外貨を獲得していくことが重要だと考えています。

推進をする人材をどう育成していくかということについては、人を財産に変えていくということです。デジタル技術を活用した業務変革（DX）の推進と機構改革は「町民福祉の向上」が第一の目的です。高効率、高機能を目指し、創意工夫や協調性を育む仕掛けを推進してまいります。

担い手人材については、町教育委員会が強力に推進している「ふるさとキャリア教育」を町として全面的にバックアップし、地域への誇りや愛着、郷土愛を抱いてもらいたいと考えております。自己有用感・自己肯定感の確立、グローバル人材育成とこのことにおいても教育委員会の取り組みを応援していきたいと考えております。

今後とも、町政策に関しましては機会あるごとに共有させていただきたいと思っておりますのでよろしくご理解賜りますようお願いいたします。